

令和5年度 石見まちづくりセンターの主な取組

事業名

石見地区内自主防災会意見交換会

P

●事業実施に至った背景、目的

私たちが暮らしている石見地区は、急傾斜地の多い中山間地と、浜田川とそこに流れ込む小河川の流域の狭い平地から成っている非常に災害の起こりやすい地域で、過去にも昭和58年や昭和63年には梅雨末期の集中豪雨による大きな災害が発生している。災害に遭った地域ほど防災意識が強いといわれているが、すでに35年以上経過し災害に対する関心は低下し防災組織やその活動の継続も課題となっている。そこで、まちづくりセンターとしての強みを生かしてどのように地域の防災に取り組めるかを考え、管内の防災組織等の横の連携を図り、地域課題を共有するとともに協力して課題解決に取り組む環境を作ることで「安全・安心な石見地区」に繋げようとこの事業に取り組んだ。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

浜田市防災安全課 地域活動支援課	令和5年5月～8月	計4回
石見まちづくりセンター運営推進委員	令和5年5月～7月	計3回

D

●事業の概要

- 意見交換に先立ち、地区内の自主防災会の抱えている課題やニーズを把握するため、事前アンケート調査を実施する。
- 先進的な取り組みをしている組織による活動事例報告を聞く。
- 地域性が似ている組織同士でグループを作り、まちづくりセンターの運営推進委員（防災部会）にリーダーになってもらい、アンケートで明らかになった課題をテーマにして、ラベルワークなどで意見交換を行う。
- グループ毎に話し合った内容を発表し、他のグループや市防災担当課や地域づくり担当課の意見やアドバイスを貰う。

C

●事業実施後の振り返り

成 果

- お互いの活動や悩みを話し合う中で共感することが多く、参加者に連帯感が生まれた。
- 自主防災組織が抱えている課題が明確になった。

課 題

- 事前アンケートの返信は17組織中15組織、意見交換会への参加は17組織中11組織20名と予想通り少なかった。
- 課題に対する解決策やこの会の今後の方向性について明確に示すことが出来なかった。

A

●令和6年度以降の方向性

現在、石見地区の自主防災会の設置率は28.2%と非常に低く、設置しても十分な活動ができていない組織も多い。今後は、自主防災組織相互の連携を図るため、協議会等の組織づくりを模索するとともに、新たな自主防災組織の設立の支援のための研修会等を行い、少しでも「安全・安心で暮らしやすい石見地区」になるように取り組みたい。

